

未来に残せるものは何？

～市民主体ニヨル環境保全ノススメ～

私たちの住む手稲区では、豊かな自然を身近に感じることができます。日常当たり前のように享受している「地球からの贈り物」ですが、この恵みを次世代に伝え、残していくために、私たちは何をすればいいのでしょうか？市民グループ「ひまわりの種の会」が取り組んできた活動の中に、その問いへの手掛かりを求めました。

『ひまわり』の芽吹き

子どもたちの未来が、安全で平和であるよう、「環境」という視点から何ができるかを考え、行動する市民グループ「ひまわりの種の会（新保るみ子代表）」。この会は、「生活ネットワーク」という資源回収などを行っていた団体を母体とし、幼稚園児のお母さんたちが中心となり、平成十二年四月に活動をスタートしました。

発足してからの一年間は、それまでと同様に資源回収を行う一方、地球温暖化問題など、環境問題を主体とした勉強会を開催し、自分たちの力で、何ができるかを考えました。

そして、環境保全のための身近な取り組みとして、フリーマーケットへの参加、ベトナムの子どもたちへ文房具のプレゼントや、リサイクル石けん作り教室などといった活動を行いました。

その後、グループの活動は大きく幅を広げることとなります。

「北風と太陽コンサート」と題した、人と自然との調和をテーマとした電気を使わないコンサートを開催。さらに、同年末には、大通公園において太陽光と風力で発電した電力により、イルミネーシ

ョンをともしず試みを成功させ、多くの人たちの共感を得たのです。また、「Reduce（減量）」「Reuse（再利用）」「Recycle（循環）」の三つの「R」を意味する「3Rコレクション」を市に紹介する取り組みを展開。廃棄物の再利用を勧める講演や、家にある不用品を再利用した作品展を行いました。

さらに、自然エネルギーの活用

「ひまわりの種の会」代表 新保 るみ子さん



自宅に併設されたアトリエにて

グループの取り組みについてお話を伺った新保さんは、環境問題に取り組む市民団体「循環（くるくる）ネットワーク北海道」運営委員や「札幌市環境保全協議会」委員なども務め、循環型社会の実現に力を尽くしています。富丘にご主人とお子さんと一緒に暮らしており、緑豊かな環境の中、陶芸家としての創作活動も行っています

（「ひまわりの種の会」ホームページアドレス <http://yumeyume.sinnet.sh/d-club/>）